

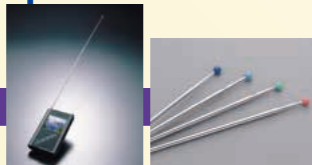
創業～1960年代

車載通信機器
VCCS事業 1957～



カーアンテナ
(ピラータイプ)

ロッドアンテナ
1956～2003



ロッドアンテナ

スポーツ用品
1959～1995



ゴルフクラブ・
シャフト

1970年代

横尾製作所を躍進させたのは、時代のヒット商品:トランジスタラジオのロッドアンテナでした。パイプの精密加工技術をベースにスムーズな伸縮性を備えたヨコオの高品質なアンテナは、家電メーカーから高く評価されました。こうしてアンテナ技術は、事業の大きな軸となっていきます。



AM/FM
モーターアンテナ



パーソナル
無線アンテナ

1980年代

マイクロウェーブ機器
1983～



電動式コーナークォーン



衛星放送受信用
アンテナ



ローノイズコンバータ

マイクロウェーブ技術



金属パット・シルバード

高度経済成長の中、広がるレジャーブームを背景にパイプ技術を生かし、ゴルフクラブ・シャフトの製造販売を開始。金属パットやラケットのシャフトにも展開しました。



ゴルフシャフト・プロメイト

BS放送開始に合わせて、マイクロウェーブ技術を本格導入。以降、BS放送・VSAT向けにマイクロウェーブ機器を展開し、現在はVCCS・CTC事業の重要な中核技術として製品ラインナップの5G対応に大きく寄与しています。

アンテナ技術

微細精密加工技術

パイプ伸管
技術



創業製品・
バネ棒

精密パイプ
加工技術



ヨコオの前身、横尾製作所の創業者：横尾忠太郎(1894～1977)は、懐中時計の蝶番に使われる精密パイプの加工職人として腕を磨きました。やがて腕時計が主流になると極細パイプにバネを仕込み、両端が伸縮するベルト取付部品「バネ棒」を発明します。この画期的な発明品は海外でも広く使われるようになり、世界一のシェアを獲得。今につながる「技術のヨコオ」の原点となっています。

バネ棒という職人の技を、世界トップレベルの先端技術へ。その高度な微細精密加工の精度はヨコオならではの個性的・独創的な製品を生み出し、半導体検査・電子機器用コネクタ・先端医療機器という、多種多様なフィールドで開花していきます。

回路検査用コネクタ
CTC事業 1979～



コンタクトプローブ



インターフェース
コネクタ



IC検査用
ソケット

半導体検査用プローブ・ソケットなどに求められる仕様は、半導体の微細化・高性能化により、その水準がますます高度化しています。1979年に回路検査用コネクタ事業をスタートさせたヨコオは、世界トップレベルの微細精密加工技術に加え、マイクロウェーブ技術を駆使して開発した半導体検査用治具をグローバルに提供しています。

電子機器用コネクタ
FC事業 1986～



スプリングコネクタ



同軸SPC

「すべてはクダから始まった」



1922年、横尾忠太郎が修行元から独立を決意し、翌年に自転車屋「誠輪舎」を開業します。開業当日に関東大震災が発生して店舗を失いましたが、わずか1カ月後には営業を再開しました。1926年には、職人として15年間培った技術を生かし、東京の向島に精密パイプ加工工場を開業します。こうして、株式会社ヨコオの前身、横尾製作所が本格的にスタートしました。

これまでも、これからも。ヨコオは技術で

次代を拓き続けます。

ヨコオは新たな100年へ

1990年代

2000年代

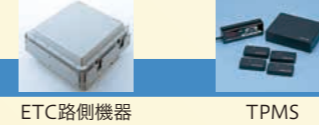
2010年代

2020年代

車載通信機器
VCCS事業



マイクロウェーブ
機器



IoT・5Gなど通信環境が劇的に進化し続ける現代。ヨコオは世界トップレベルの技術力と獨創性により、社会に求められるユニークなアンテナを生み出し続けます。

ロッドアンテナ



スポーツ用品



セラミック機器
1996~



セラミック技術をベースとしたLTCC事業を2000年代前半から本格事業化。2019年には合弁会社 LTCCマテリアルズ株式会社を設立し、素材開発から製品製造までの一貫生産体制を実現しました。



マイクロウェーブ技術

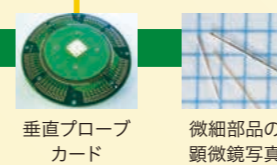
アンテナ技術

微細精密加工技術

セラミック技術

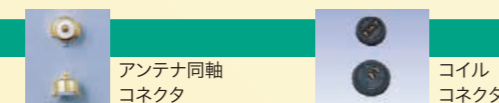
表面改質材料技術

回路検査用コネクタ
CTC事業



素材の特殊な表面処理により、製品に耐摩耗性・耐熱性・密着性・装飾性などの付加価値をプラス。製品の差別化と高機能化を促進する、成長株の技術です。

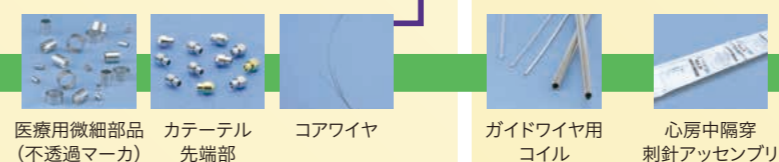
電子機器用コネクタ
FC事業



電気検査治具
DS事業 1993~



医療用機器
MD事業 2006~



微細精密加工技術を駆使した第4の柱として2006年から事業化。2012年にはISO13485 (医療機器品質マネジメントシステム) 認証を取得するとともに、産官学連携のベンチャーエコシステムにより、革新的な医療機器の提供を目指しています。